

#### IV 調査・試験

##### 1. 採苗試験

###### 1) 採苗方法

ホンダワラ類の採苗については、天然藻場において基質を投入する方法、または成熟母藻を基質に結びつける方法等いずれも実用的手法であることが明らかにされてきている。

本試験の結果も、多くの場合濃密な幼芽の着生が認められた。

泡瀬実験漁場における11月24・25日の母藻移植試験では、建築用コンクリートブロック及びワイヤメッシュ等に幼芽の生育がなく、採苗できなかった。それは移植時期が遅かったためと思われる。

したがって、ホンダワラの採苗については、成熟藻を用いることに留意すれば、実用上の問題はないと結論される。

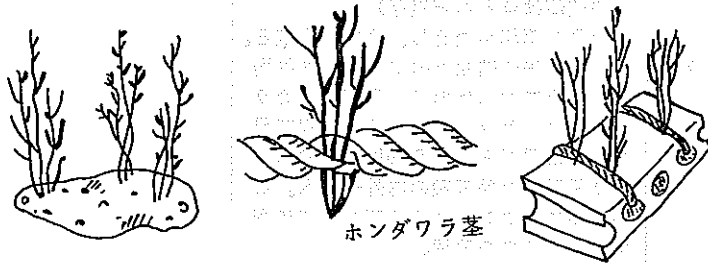


図-2. 母藻の着いた大礫とPPロープにさし込んでブロックに結んだ移植法。

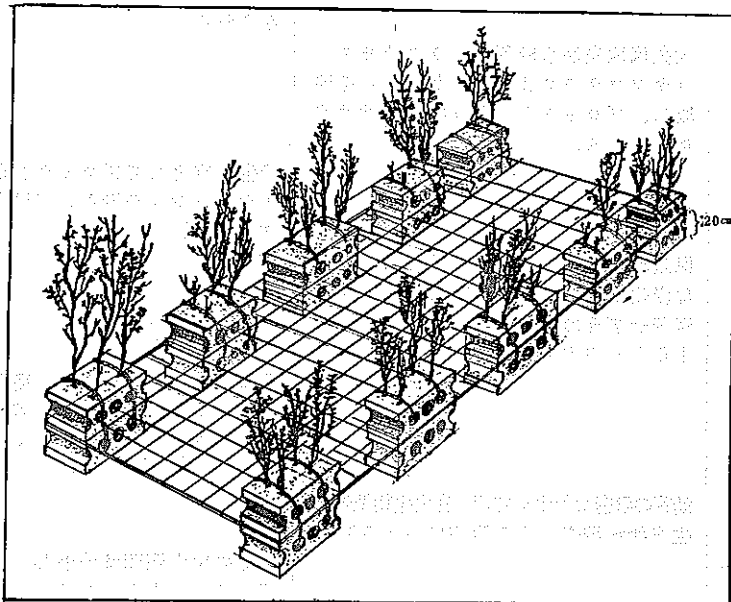


図-3. ワイヤメッシュ (1.5 × 6 m) の設置見取図

試験の経過と結果を表1、2、3に示した。

2) 移植母藻による幼芽の着生範囲

移植母藻によるホンダワラ幼芽の生育範囲は母藻の投入点からどれくらいまで及ぶのかということについてはあまり知られていない。

このことは母藻移植による採苗及び藻場造成の手法上、明らかにする必要があると思われるので調査を行った。

方法：恩納村にある前兼久漁場で51年10月21、25日に合計約400kgの母藻を移植し、52年2月8日に投入基質及びサンゴ礁等について幼芽の生育範囲と生育密度を調査した。

表-2. 前兼久実験漁場におけるホンダワラ幼芽の生育個体数 (1977年2月8日調査)

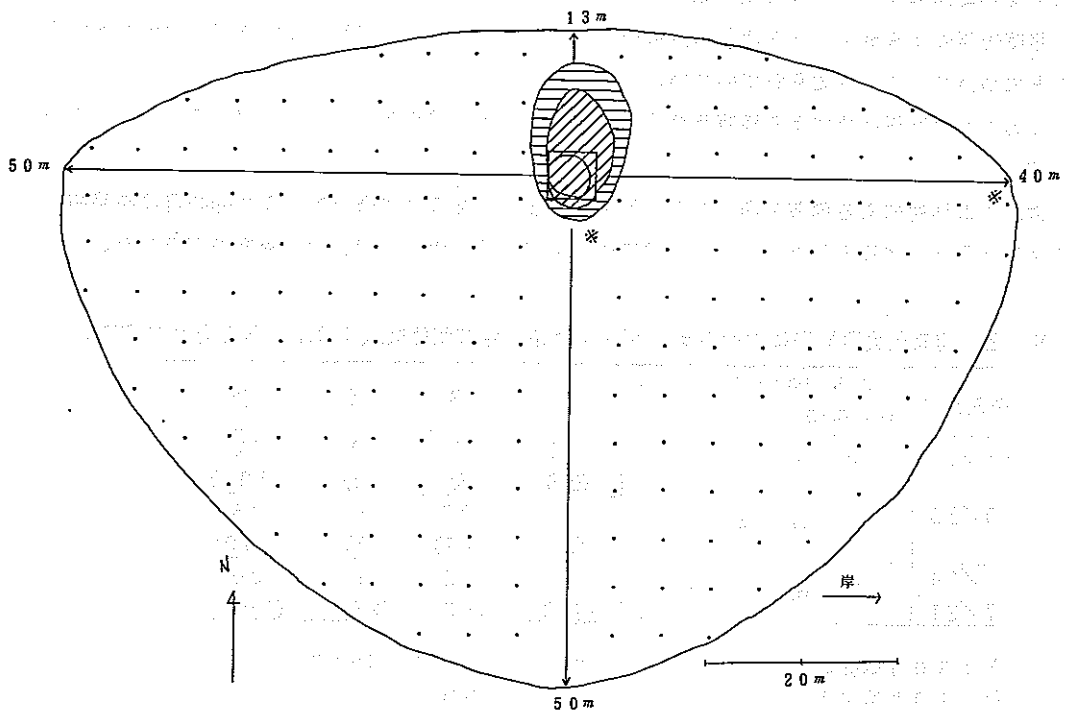
投入月日	生育密度別ブロック数 投入個所	A	B	C	計
10/21	岩 礁 上	11 (92)	1 (8)	0 (0)	12 (100)
10/25	砂 礫 帯 ①	5 (5)	87 (92)	3 (3)	95 (100)
7/14	砂 礫 帯 ②	3	12	5	20
7/21		(15)	(60)	(25)	(100)

A : 500個体以上    B : 100個体以上    C : 10個体以上  
D : 10個体未満                      -1ブロック当り-

表-3. 泡瀬実験漁場におけるホンダワラ幼芽の生育個体数

調査年月日		1977年1月18日					1977年2月23日					備 考
生育密度区分		A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	
母藻の投入月日	51年8月25・26日	-	++	-	-		-	+	-	-		
	51年11月24・25日	-	-	-	100	100	-	-	-	100	100	
		-	-	-	8	8	-	-	-	8	8	

※51年8月25・26日食害試験用と大礫の着生基質とともに移植したものであり、それが成熟し、卵を放出して周辺の自然礫に着生生育したものである。



保護網と岩礁



B : 100 個体以上 / 建築用ブロック 1 ケ



C : 10 "



D : 10 個体未満

※- 宇堅産ホンダワラ Sp. 8 とと思われる葉長 10 ~ 20 cm 台の 20 個体が認められた。

※- 母藻の投入部分は生育密度 B 域にはほぼ一致する。

図-4. 前兼久実験漁場におけるホンダワラ幼芽の生育の密度と範囲